

プログラム責任者からのメッセージ



災害・救急医療学
特任教授
西山 謹吾

救急科研修はすべての医師に必要な研修と考えています。例えば、急に会話ができなくなった、突然胸痛が起こった、交通事故で胸を打った、背中が痛いとの訴えがあるがそのまま見ていいのだろうか、など様々な病状を抱えた患者がやってきます。そのような患者に対応できる医師を救急科研修で育てていきます。そのためには、まず病態を正常に戻すことができるようになること、つまり初療のABCを迅速に評価し、必要な検査と診断ができるようになることを3年間の目標とします。その後は集中治療に進むもよし、各科に進むもよし、救急医療を極めるもよし等、様々な道があります。また高知県にとって重要な南海トラフ大地震などの災害医療についても勉強していきます。災害時は、自分の専門は〇〇科だからと言ってはいられません。すべては被災者のために頑張るのみです。そのような医師を育てていきます。

プログラムの特色

3年間の間に県内外の救命救急センターに出向し経験を積んでもらいます。地域医療については、県立あき総合病院、幡多けんみん病院などで経験してもらいます。更にoff the job trainingとしてJPTEC, JATEC, ICLSコースのインストラクターを目指してもらいます。また、救急隊と顔が見える関係になることも大切であり、多数傷病者対応コース(MCLSコース)のインストラクターも目指します。ドクターヘリの搭乗希望者は高知医療センターに出向してドクターヘリ搭乗医師としても活躍することが可能です。抄読会は毎週火曜日、日本医科大学のWeb開催抄読会に参加して全国の仲間と知識を共有していきます。みなさんが様々なコースで活躍することを私たちは支援していきます。

連携施設名等

	施設名	救急科領域関連病院機能	指導者名等	救急搬送件数 (台/年)	病床数
基幹施設	高知大学医学部附属病院	災害拠点病院	救急科/指導医・専門医4名 集中治療専門医2名など	約2,400	600
連携施設	高知赤十字病院	救命救急センター、 災害拠点病院	救急科/指導医・専門医11名 その他の診療科専門医	約6,000	402
	高知医療センター	救命救急センター、 基幹災害拠点病院	救急科/指導医・専門医4名 その他の診療科専門医	約3,500	660
	県立あき総合病院	へき地診療も行う 地域二次救急 医療機関災害拠点病院	前田 博教(病院長、外科) その他の診療科専門医 (外科、循環器内科、整形外科 など)	約1,800	270
	幡多けんみん病院	へき地診療も行う 地域二次救急 医療機関災害拠点病院	矢部 敏和(病院長、循環器内科) その他の診療科専門医 (外科、呼吸器内科、整形外科 など)	約2,650	322

専門医 週間スケジュール

高知大学医学部附属病院の例

時間	月	火	水	木	金	土	日
8:00 ┆ 8:30	救命救急 センター などへ 外勤	日本医大と web抄読会					
10:00 ┆ 17:15			ERカンファレンス ICUカンファレンス ER対応			月1回程度の日勤	
							週1回程度の夜勤(翌日休み)

専門医取得までのタイムスケジュール

施設類型	指導医数	施設名	研修内容	1年目	2年目	3年目
基幹	2	高知大学医学部附属病院	クリティカルケア・ER			
連携A	6	高知赤十字病院	クリティカルケア・ER			
連携B	3	高知医療センター	病院前救護・ドクヘリ			
連携C	0	県立あき総合病院	地域の救急			

取得可能専門医

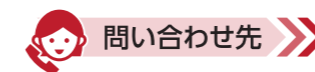
- 救急科専門医
- その次は集中治療専門医

指導医の声



准教授
宮内 雅人

救急指導医として、救急対応だけでなく、その後の経過など、一人一人の患者さんに真摯に向き合っていきます。また、大学病院として研究にも力を入れ、未来志向の救急医養成を目指します。どの科にするか迷っている先生、女性の先生方、大歓迎です。よろしくお願いします。



問い合わせ先

■ 教室名/災害・救急医療学 ■ 電話/088-880-2286
■ 担当者名/楠瀬 麻里(医局秘書) ■ メール/im68@kochi-u.ac.jp
クヌセ マリ